

BEST AVAILABLE COPY

(Translation)

Citation E: A microfilm of Japanese Utility Model Application No. 162888/1987 (JP U.M. Laid-Open Publication No. 67530/1989)

Title: Powder Sensing Unit

21 : powder sensing unit
22 : resin case
23a : first tubular portion
23b : second tubular portion
24 : attachment part
25 : attachment hole
26 : flexible film
27 : piezoelectric vibrator
35: reinforcement rib

公開実用平成 1- 67530

(E)

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 平1-67530

⑬ Int.Cl.

G 01 F 23/22

識別記号

府内整理番号

⑭ 公開 平成1年(1989)5月1日

Z-7355-2F

審査請求 未請求 (全頁)

⑮ 考案の名称 粉体検知器

⑯ 実 願 昭62-162888

⑰ 出 願 昭62(1987)10月23日

⑱ 考案者 山下宗治 京都府長岡京市天神2丁目26番10号 株式会社村田製作所
内

⑲ 考案者 藤本克己 京都府長岡京市天神2丁目26番10号 株式会社村田製作所
内

⑳ 考案者 井上二郎 京都府長岡京市天神2丁目26番10号 株式会社村田製作所
内

㉑ 出願人 株式会社村田製作所 京都府長岡京市天神2丁目26番10号

㉒ 代理人 弁理士 宮崎主税

明細書

1. 考案の名称

粉体検知器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 少なくとも一方に開口を有する筒状部、および前記筒状部の外側に一体に形成されており、かつ取り付け孔を有する取り付け部を有する樹脂ケースと、

前記筒状部の一方の開口を閉成するように固定されており、粉体に接触されるように設けられた可撓性のフィルムと、

前記可撓性フィルムに貼り付けられた圧電振動体とを備える粉体検知器において、

前記樹脂ケースの筒状部内には、取り付け時に取り付け部から加えられる応力による筒状部の変形を防止するための補強リブが一体に形成されていることを特徴とする粉体検知器。

(2) 前記樹脂ケースの筒状部は、可撓性フィルムで閉成された開口を有する第1の筒状部と、第1の筒状部と異なる径を有し、第1の筒状部に

344

公開実用平成 1—67530



連なって設けられた第2の筒状部とを有し、第2の筒状部に前記取り付け部が一体に形成されており、かつ前記補強リブが該第2の筒状部内に設けられている、実用新案登録請求の範囲第1項記載の粉体検知器。

(3) 前記第2の筒状部は角筒体であり、前記補強リブは角筒体の両側の内壁間に掛け渡されて設けられている、実用新案登録請求の範囲第2項記載の粉体検知器。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、例えば複写機のトナーのような粉体を検出する装置に関し、特に圧電振動体の振動を粉体により抑制することにより粉体のレベルを検出する粉体検知器に関する。

〔従来の技術〕

第2図は、従来の粉体検知器を示す。粉体検知器1は、樹脂ケース2を用いて構成されている。樹脂ケース2は、両側に開口を有する筒状部3の外側に取り付け部4が一体に形成された構造を有

する。取り付け部4には、取り付け孔5が形成されており、該取り付け孔5を利用してトナーボックスのような粉体の充填される容器に取り付けられるように構成されている。

筒状部3の一方の開口を閉成するように可撓性フィルム6が貼り付けられている。可撓性フィルム6は粉体が接触される部分を構成し、後述する圧電振動体と粉体とを隔てるために設けられているものである。可撓性フィルム6の内側には、圧電振動体7が固着されている。圧電振動体7は、金属から成る皿状の振動板8に励振用電極が表裏に形成された圧電セラミック板9を貼り付けた構造を有する。

なお、10～12はリード線を示し、筒状部3の他方側に形成された開口を閉成するように固定された基板13上の導電パターンに電気的に接続されている。また、基板13上には、種々の回路部品が実装されている。

また、この粉体検知器1を取付け対象部分に固定するに際し取付け対象側の振動が検知器側に伝

公開実用平成 1- 67530



わるの防止するために、ならびに粉体が取付対象側から漏れ出さないようにするために、ゴムシート14が取り付け部4の内側に配置されており、該ゴムシート14を介して容器等に固定されるよう構成されている。

(考案が解決しようとする問題点)

第2図の粉体検知器1を、トナーボックスのような粉体の充填される容器に固定するに際しては、取り付け部4の取り付け孔5にボルト等を挿入し固定する。よって、固定に際し、ボルト等の締め付け力によって樹脂ケース2が歪んだり、変形しがちである。その結果、歪みや変形が、可撓性フィルム6の固定されている部分にまで及ぶため、粉体検知器の特性が固定の際の締め付け量に応じて変化するという問題があった。

また、上記締め付け力だけでなく、指で樹脂ケース2を押圧した場合にも特性が変化しがちであった。よって、固定後においても、指や他の物体の接触によって誤動作しがちであった。

もっとも、樹脂ケース2に代えて、ダイキャス

トによりケースを構成すれば、上記のような問題点は解消される。しかしながら、ダイキャストはかなり高価であり、粉体検知器のコストを非常に高いものとする。

よって、本考案の目的は、外力や固定時の締め付け力等による特性変化を効果的に解消することができ、かつ安価な粉体検知器を提供することにある。

(問題点を解決するための手段)

本考案の粉体検知器は、筒状部と、この筒状部の外側に一体に形成されており、取り付け孔を有する取り付け部とを備える樹脂ケースを用いて構成されている。この筒状部の開口を閉成するよう、粉体と接触される可撓性フィルムが固定されている。そして、可撓性フィルムには、圧電振動体が貼り付けられている。

さらに、筒状部内には、取り付け時に取り付け部分から加えられる応力による筒状部の変形を防止するための補強リブが一体に形成されている。

(作用)

公開実用平成 1—67530



樹脂ケースに筒状部の取り付け部側からの応力に拮抗する補強リブを一体に設けることにより、樹脂ケースが補強されている。従って、取り付け部側からの応力による樹脂ケースの変形を防止することができる。

(実施例の説明)

第1図は本考案の一実施例の断面図である。この粉体検知器21は、ダイキャスト等に比べて安価な合成樹脂から成る樹脂ケース22を用いて構成されている。樹脂ケース22は、筒状部23と、筒状部の外側に一体に形成されている取り付け部24とを有する。

第3図および第4図を第1図とともに参照して、筒状部23は、比較的小さな径の円筒形の第1の筒状部23aと、比較的大径の角筒体よりなる第2の筒状部23bとから成る。

筒状部23の一方開口には、該開口を閉成するように可撓性フィルム26が固着されている。そして、可撓性フィルム26の内側に圧電振動体27が固定されている。この圧電振動体27は、皿

状の振動板 28 と皿状の振動板 28 に固定された
圧電セラミック板 29 とを有する。30～32 は
リード線を示し、圧電セラミック板 29 の表裏面
に形成された電極および帰還電極に接続されてい
るものである。

他方、第2の筒状部 23b の下方の開口を開成
するように、回路基板 33 が固定されており、該
回路基板 33 の内側に図示の回路部品が実装され
ている。リード線 30～32 は、この回路基板 3
3 上の導電パターンに、それぞれ、電気的に接続
されている。また、34 はゴムシートを示し、ト
ナー等の粉体が充填されている容器に取り付ける
際に容器側からの振動を遮断するために、ならび
に粉体の漏れ出しを防止するために設けられてい
るものである。

ところで、第2の筒状体 23b の内部には、補
強リブ 35 が設けられている。樹脂ケース 22 の
平面図及び半断面図である第3図および第4図に
多点のハッチングを付して示すように、補強リブ
35 は角筒体のコーナー部の内壁に掛け渡されて

公開実用平成 1—67530



設けられている。なお、補強リブ35は樹脂ケース22と同一材料で一体に成形されているが、理解を容易するために便宜上多点のハッチングで示したものである。また、取り付け部24は、第2の筒状部23bにおいて補強リブ35が設けられている部分のすぐ外側に延ばされている。すなわち、補強リブ35と、取り付け部24はほぼ同一高さ位置に設けられている。従って、取り付けに際し、取り付け部24の取り付け孔25にボルトなどを挿通し、締め付けた場合に生じる応力が筒状部23側に加えられたとしても、補強リブ35により該応力に拮抗し得るように樹脂ケース22が補強されている。よって、取り付けの際のボルト等の締め付け力による樹脂ケース22の変形や歪みを効果的に防止することができる。

なお、補強リブ35は、取り付け部24側からの応力に拮抗し得るように構成すればよく、図示のように角筒体のコーナー部の両側の内壁を掛け渡すように構成する必要は必ずしもない。例えば、上方から見た状態で、第2の筒状部23b内に十

字状あるいは格子状の補強リブを構成することも可能である。

また、上記実施例のように、補強リブ3・5の設ける高さ位置は、取り付け部2・4とほぼ同一高さ位置とすることが好ましいが、若干高さ方向にずれた位置に補強リブを配してもよい。

さらに、上記実施例では、検出部分である第1の筒状部2・3aと異径の筒状部2・3bを構成し、第2の筒状部2・3b側に取り付け部2・4を一体に形成していた。このように検出部分を取り付け部と異なる径の筒状部2・3aに設けることにより、取り付け部からの応力が検出部分に伝わることをより効果的に防止し得るが、必ずしも異径の筒状部を連結する必要はなく、同一径の円筒体または角筒体を用いて筒状部を構成することも可能である。

(考案の効果)

以上のように、本考案では、補強リブにより樹脂ケースが効果的に補強されているので、取り付け時に取り付け部分から加えられる応力によって

公開実用平成 1—67530

樹脂ケースが変形したり歪んだりすることが少なく、従って特性変化の少ない信頼性に優れた粉体検知器を安価に構成することが可能となる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本考案の一実施例の断面図、第2図は従来例の断面図、第3図および第4図は第1図実施例に用いられる樹脂ケースの平面図および第3図中のIV-IV線に沿う半断面正面図である。

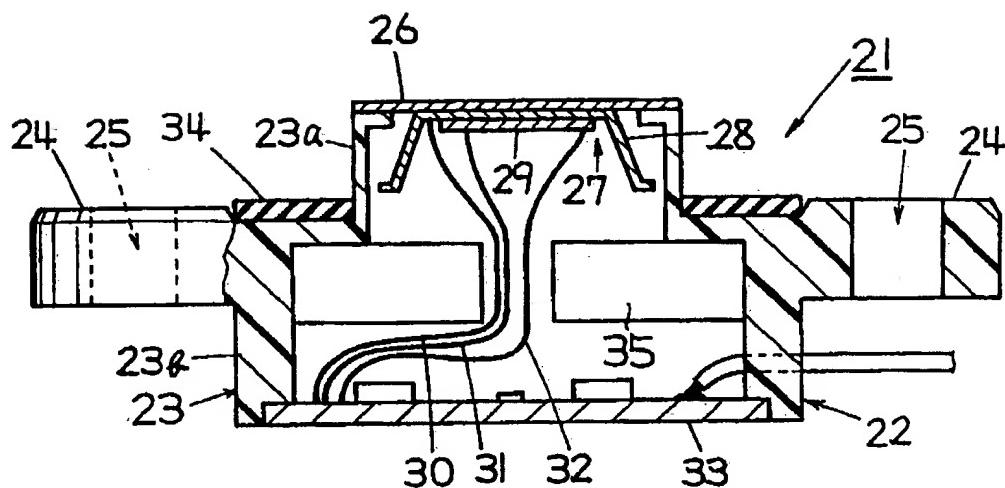
図において、21は粉体検知器、22は樹脂ケース、23は筒状部、23aは第1の筒状部、23bは第2の筒状部、24は取り付け部、25は取り付け孔、26は可撓性フィルム、27は圧電振動体、35は補強リブを示す。

実用新案登録出願人 株式会社 村田製作所

代理人 弁理士 宮崎主税



第1図



- | | |
|--------------|--------------|
| 21 : 粉体検知器 | 24 : 取り付け部 |
| 22 : 樹脂ケース | 25 : 取り付け孔 |
| 23 : 筒状部 | 26 : 可撓性フィルム |
| 23a : 第1の筒状部 | 27 : 圧電振動体 |
| 23b : 第2の筒状部 | 35 : 補強リブ |

354

昭和四十年九月二日

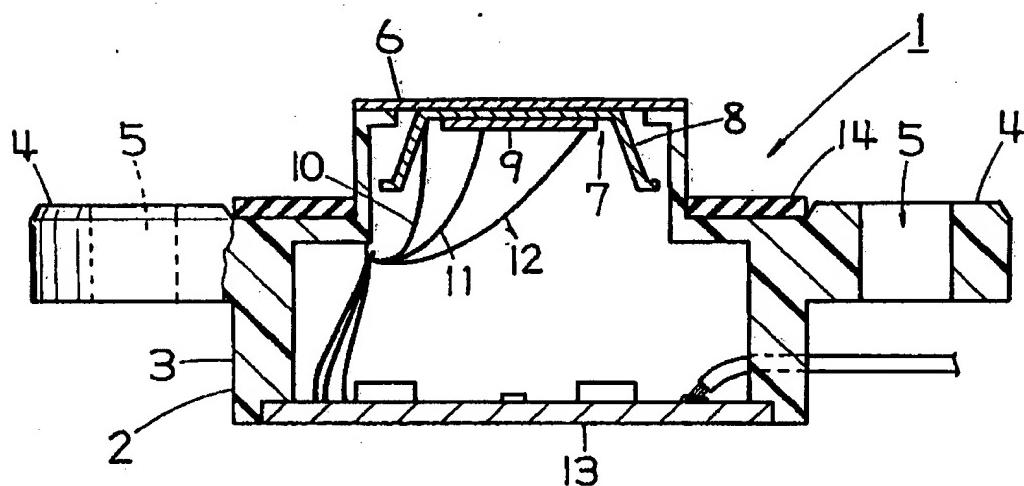
実用新案登録出願人 株式会社 村田製作所

代理人

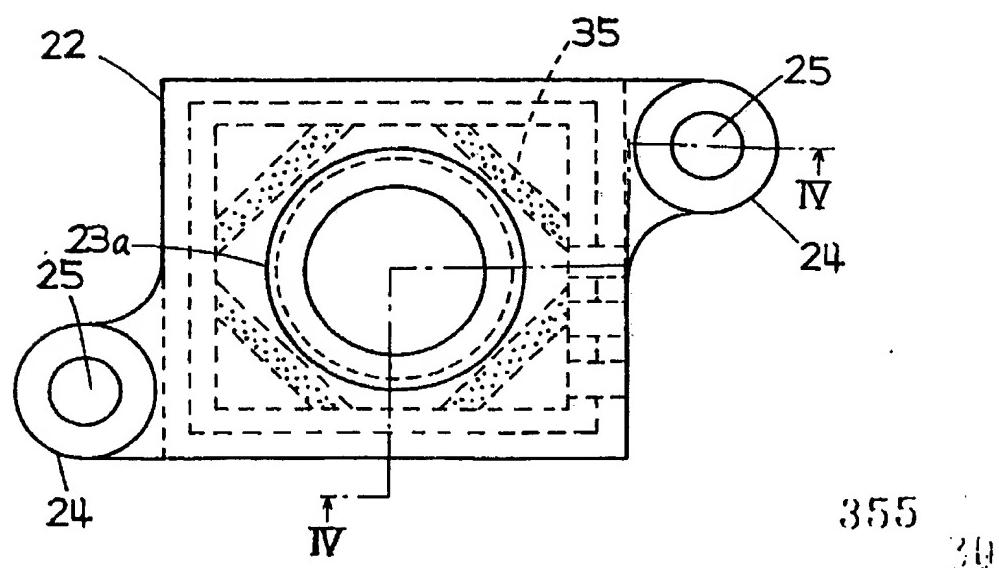
弁理士 宮崎主税

公開実用平成 1—67530

第 2 図



第 3 図

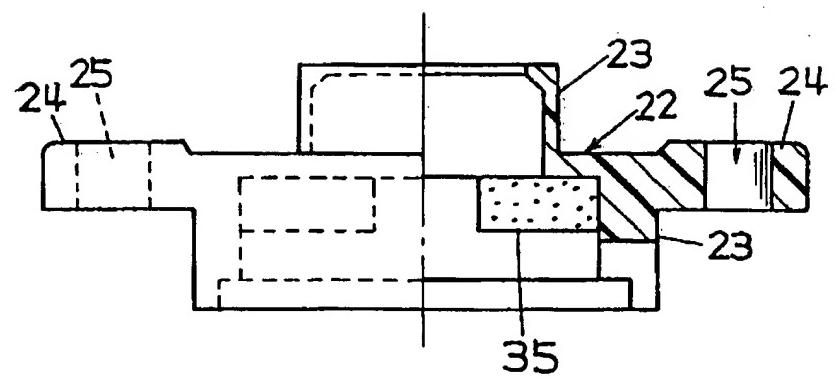


実用新案登録出願人 株式会社 村田製作所

代理 人

弁理士 宮崎主税

第4図



356

実用新案登録出願人

株式会社 村田製作所

代理 人

弁理士 宮崎主税

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.